

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製薬衛生師コース

看護科

聖マリアンナ医科大学 教育講演

1月17日(土)、今年度3回目の教育講演会がありました。講師に聖マリアンナ医科大学の総括看護部長ナースサポートセンター長の高橋恵先生をお迎えし、「看護のやりがい」と題して講演をして頂きました。講演で、「若い頃の失敗は自分を成長させることを忘れずに頑張してほしい」と励まされていました。



国際交流

韓国からの留学生帰国

1月26日(月)、留学生の送別礼拝がありました。毎年、韓国の姉妹校京花女子高等学校・京花 EB 女子高等学校より留学生を向え交流を深めています。留学生のタク・イェジーさん、ジョン・ジィナさん、キム・ソンジュさん(EB校)は、送別の挨拶でとても親切にして頂き良き学びとなりましたと感謝を述べていました。29日(木)に無事帰国しました。



健康福祉コース

特別講演

1月17日(土)、1・2年対象に特別講演会がありました。1年生は、日本ファンドレイジング協会の大石先生をお迎えし、「寄付の教室」を行いました。寄付を通して誰かを応援することで自分も社会参加する楽しさを体験することを目的としたこのプログラムは、自らの価値観で社会的な活動応援することの楽しさ、そして様々な価値観や考え方の違いを認識し、互いに助け合い自分たちがベストだと考える応援方法を選択していくことの難しさなどを学ぶものです。生徒たちは、この講演を通して「今まで生きてきて全く知らなかった何かを守る団体がたくさんあって、それを知れたのでよかったです。機会があれば自分が良いと思う団体に参加したいと思った。」と感想を述べていました。また、2年生は、筆談の用いるミニホワイトボードの作成をしました。



講演中の大石俊輔先生

ミニホワイトボード
(生徒の作品)

製菓衛生師コース

中村調理製菓専門学校

製パン実習

2月7日(土)、製菓衛生師コース1年生26名が特別授業として中村調理製菓専門学校へ行きました。製菓技術の向上と専門学校で学習することにより製菓についての興味関心を高め将来の進路を考えることを目的とした実習に生徒たちもレベルの高さに驚きながらも真剣に聞き入っていました。



2月9日(月)・10日(火)・13日(金)の3日間、製パン実習がありました。講師に、武藤欣弥先生をお迎えし「くるみパン・食パン・クロワッサン・菓子パン・NYスコーン・シュトーレン・バターロール・オニオンロール他」の20種類のパンを作り上げました。プロの職人による直接指導に緊張しながらも良い経験になりましたと感想を述べていました。



指導中の
武藤欣弥先生



実演中の中村調理製菓専門学校の
山木健太郎先生

製菓衛生師国家試験

去る2月10日(火)、平成26年度製菓衛生師国家試験が長崎県でありました。23名の生徒が受験しました。遅くまで過去問題に取り組んだ結果が期待されます。合格発表は3月17日(月)です。



第65回(通算79回)卒業証書授与式

日時:平成27年3月3日(火)
午前10時 開式
場所:パターソンホール4F講堂

第44回専攻科卒業証書授与式

日時:平成27年3月6日(金)
午前10時 開式
場所:短期大学礼拝

平成27年度新入生・保護者説明会

日時:平成27年3月18日(水)
午後1時30分
場所:パターソンホール4F講堂

「草創期の黒田藩と栗山大善」黒田家と宇都宮家の抗争⑥

長政は力の限り戦ったのですが、寒田の城井城は岩石で出来た自然の要塞で、難攻不落の山城です。肥後から馬ヶ岳城に帰ってきた官兵衛は、戦況を聞き、正攻法では落城の難しさを知り、戦術を変えて兵糧攻めに作戦を変更して宇都宮の攻略にかかります。食糧が次第に欠乏してきますと、場内の兵十達は戦意を失い逃亡を始めます。さすがの鎮房も厳しい状況を悟り、降伏を申し出ます。黒田父子は秀吉の了承を得て申し出を入れ、嫡子朝房を人質にとって和睦します。時に、天正十六年(1588)一月のことでした。和睦の条件として、一、宇都宮家に三万六千石余を与え、豊前の一諸侯として認める。ただし、黒田・毛利両家の移封まで、現状維持で待つこと。二、講和の誠意を表すために、鎮房の娘鶴姫(十三才)を長政(二十才)に嫁がせ、両家が姻戚関係を持つこと。というものでした。

秀吉は肥後一揆の処理では、佐々成政には弁明の機会を与えず、天正十六年(1588)の五月、弁明のために大阪に向う途中、尾崎に留め置き、法園寺で切腹を命じています。一揆の性格の違いもありますが、官兵衛にはなんらの咎めもなく、肥後の検地奉行に任じたぐらいです。天正十六年(1588)七月、大阪に上って秀吉に拝謁した官兵衛は鎮房の処置について、指示を仰ぎます。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より